



“あなた”は“あなたのまま”でいいのよ

日本の子どもは、他国の子どもに比べ、“身近な人間関係に気を^{くら}使う傾向がある。”^{けいこう} こういった調査結果が出ているそうです。^{ちようさけつ か}

この調査を行ったのは「ベネッセ教育研究開発センター」で、全国の小学4年生から高校2年生の約1万4千人を対象に、「**家族**」「**教師**」「**友達**」「**今の成績**」「**自分の性格**」^{まんぞく と}についての満足度を聞いたそうです。



その結果、小・中・高生とも「家族や教師との関係」には7～8割が“満足”と答えているのに対し、自分のこと（「今の成績」や「自分の性格」）になると、年齢が上がるにつれて満足度が低下してしまうそうです。

小学生の約半分は「成績」「性格」ともに“満足”と答えているのに対して、高校生になると「成績」に満足している人は“約20%”、「性格」は“30%台”にまで下がってしまうようです。

思春期^{ししゆんき}は自分と他人の違いに敏感^{びんかん}になり、人と違っているところを否定的に捉えてしまったりします。^{ひていてき とら}

中には“いじめ”の問題も関係しているかもしれませんが、「こんな自分は価値^{かち}がない」と自分の殻^{から}に閉じこもってしまう子どももいるのだとか。



ベネッセ教育研究開発センターの木村調査室長によれば、「親との会話が^{おとなあつが}多い子や、親が大人扱いしてくれる子ほど自分に満足しているといった傾向がある」とのことです。

「あなたはあなたのままでいいよ。」

こんなふうにしりげなく、子どもの背中を押してあげられるといいかもしれませんね。